

2 学期 終業式（全日制） 校長講話

皆さんこんにちは。

2 学期は、始業式から今日まで 85 日間でした。5 ヶ月間という長い学期でした。学習、学校行事、生徒会活動、部活動など様々な場面でそれぞれの体験ができたと思います。佐久地域でも、小海高校 3 年のショートトラックの神長選手がオリンピックに、佐久長聖高校の男子駅伝部が全国優勝と高校生が頑張っています。生徒の皆さんの中には、同級生だった人や同じ中学出身など知っている選手もいるかもしれませんね。なにかに、集中し努力することで大きな結果を得ることができた人は、必ずと言っていいほど「応援が力になりました。」と話します。みんなにも同じように、家族や友達、先生方といった応援団がいます。そのことは忘れないで欲しいと思います。

さて、3 年生の皆さんは、3 年間の高校生活を完全燃焼するため、進路実現を目標に励み、過ごしてきました。既に一部の方は、進路も決定し、卒業後の準備に入っています。進路が決まったからといってもゴールではありません。学び続けることが大切です。また、これからセンター試験、受験という人は、明日、明後日も模試が予定されています。人生の関門に立ち向かうため追い込みに入っているでしょう。体調を整えながら、価値ある悔いのない冬休みを過ごしてください。

2 年生の皆さんは、3 年生から部活動、生徒会活動などを引き継ぎ、学校の中心となって頑張ってくれています。生徒会執行部も「同窓会の発展させる会」に修学旅行から帰った翌日に参加し、地域の方々と課題を話し合い、提案をするなど活発に討議に参加してくれました。生徒会執行部も、朝読書の前に校歌を流したり、3 年生への応援メッセージを届けたり、地域清掃を行ったり、様々な新しい企画を実行してくれています。また、平和学習を積み重ね、沖縄の歴史や現状を学習し、修学旅行に臨みました。実際の状況を目の当たりにし、さらに多くのことを感じ、考えてくれたのではないのでしょうか。沖縄での体験が今後に活かせることを期待しています。

1 年生は、高校での一通りの行事などを体験し、南高生活にも慣れ、自分の居場所を見つけつつあるでしょう。1 年生の廊下には、夏に行ったインターンシップのまとめが貼り出してありました。充実した取り組みだった様子が伝わります。今後も、自分の目標を確かなものとしながら、実現に向けて努力をしてください。

「一年の計は元旦にあり」という言葉があります。これは、諸説ありますが、一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にあり、十年の計は樹を植えるにあり、百年の計は子を教えるにありとの代表的な一句であって、計画は早い時期に明確に立てることが大切で

あることを示していることわざです。

日本では、1年の終わりにから新年にかけて除夜の鐘を打ち、百八つの煩悩を消滅させ、新たな年への期待と願いを込めるという習慣があります。この大晦日から新年にかけての伝統は、私たちの1年間を振り返り、新しい年に思う夢と希望を確認し、その実現に取り組もうとする厳粛な場面を作ってくれています。

皆さんには、1年の冒頭に希望や目標を明確にしてほしいと思います。自分の限界を自分で決めず、あきらめることなく精いっぱい取り組んでください。皆さんには、限りない可能性があるのですから。

そして、ご家族のみなさんと、行く年を振り返り、来る年への思いを語り合う機会を持って欲しいと思います。では、1月5日には、元気に登校してきてください。少し早いですが、よいお年をお迎えください。

以上で終業式の挨拶とします。